

しらみね

# 白峰地区 (二期)

(石川県白山市)

- 計 画 期 間 平成 27 年度～令和元年度
- 面 積 21.7 h a
- 交付対象事業費 321.1 百万円
- 市人口 112,830 人

## ポイント

白山市の観光拠点である白峰の観光が産業として、さらに確立され賑わいの創出と地域活力の向上を図る。

## 地区概要

白峰地区は、平成 24 年に国の重要伝統的建造物群保存地区として選定をうけ重伝建地区の街並みを核に、温泉や地域資源を回遊できる環境を整備する。

## 目 標

白山市白峰地区の活性化を図るため、重要伝統的建造物群保存地区 (H24.7 選定) を核とした地域資源を活用し、来訪者をまちなかへ誘導するためのまちづくりを目指す。

- 目標 1 : 『まちなかの回遊性の向上』 …安全・快適・魅力的な道路空間の創出により、まちなかの回遊性の向上を図る。
- 目標 2 : 『交流人口の増加』 …白峰地区の地域資源を活かして魅力を高めるとともに、アクセス性を向上させることにより、交流人口の増加を図る。
- 目標 3 : 『まちづくり活動の活性化』 …地区住民が主体となった取組みや情報発信を行い、まちづくり活動の活性化を図る。

## 指 標

観光・交流の状況を測る資料として、重点的に整備する白峰重伝建のメインの歩行者数。毎年調査を行っている入込客、観光客が参加するイベントの参加者を指標とした。

休日まちなか歩行者数	136 人/8h (H26)	→	151 人/8h (R2)
観光施設入込客数	117,868 (H26)	→	111,393 (R2)
	人/年		人/年
祭りの参加者	13,600 (H26)	→	15,000 (R2)
	人/年		人/年

## 事業内容

基幹事業 ( 318.9 百万円) → 白峰中央通線無電柱化 (延長 290m)、石積水路 (ミヅジャ) 整備 (延長 51m) ポケットパーク整備 (N=2 箇所)、トイレ整備 (N=1 箇所)、憩いの施設整備 (N=1 箇所)、案内標識等改修 (N=6 基)

提案事業 ( 2.2 百万円) → 山岸家おもてなしガイドの育成



## 地区の現況と課題

### 地区の現況

本地区は、平成24年7月に国の重要伝統的建築物群保存地区（以下「重伝建地区」という。）として選定を受けた。旧の庄屋である山岸家をはじめとして、日本屈指の豪雪地帯である自然と風土がつくりあげた、独特の伝統的生活様式を残しており、これらの伝統的建造物群をはじめ、厳しい自然環境にある山村集落として、良好な歴史的風致が維持されている。

### まちづくりの課題

- ・観光施設入込客数や宿泊者が年々減少している中、北陸新幹線の金沢開業による交流人口の拡大を図るため、伝統的なまちなみ景観の保全・活用等により、街並み景観向上を図るとともに、利便性の高い公共交通機関の整備が必要である。
- ・白峰地区第1期により基盤的な施設は整ったが、魅力的な地域資源を結ぶ環境が不足していることから、まちなかの回遊性向上のため、安全かつ快適な道路空間の整備が必要である。
- ・地区の人口減少や高齢化の進行している中、まちなかの賑わい創出のため、地元住民のまちづくり活動への参加意識の向上や地元団体の連携・交流によるまちづくり活動の活発化が必要である。



電線類地中化整備



石積水路整備

## 提案事業の特徴

### まちづくり活動推進事業

地域住民・団体が主体となって実施する地域資源を生かした取り組みを支援する。

この地域は、平成20年に設立されたNPO法人白峰まちづくり協議会や白峰観光協会、NPO法人白山興産植物研究会などの地域の団体が、積極的に活動をしており毎年様々な地域活動を展開しており、この事業きっかけとなりさらにまちづくり活動を推進すると思われる。



まちづくり活動の中心的行事の雪だるままつり

## 計画策定プロセス

### 第1次計画の検証

平成19年度から平成21年度までの白峰地区（第1期）都市再生整備計画事業の実績と効果を検証した。

### 観光誘客対策計画の策定と具現化

平成25年度において、地域団体のNPO法人白峰まちづくり協議会と協働し、コンセンサスをとりながら、観光誘客のための計画を策定し、その具現化に向けて都市再生整備事業計画を策定した。



白峰まちづくり協議会によるイベント開催